

はまぼうふう vol.20

2006.8.30.

石狩海浜植物保護センター通信

暑かった今年の夏。石狩浜のカシワ林では、連日、ギーッ！とエゾゼミ(コエゾゼミ、アカエゾゼミもいるかもしれません)の大合唱。これがセミか？と騒音とも間違えそうなほどの大音響。

たまたまカシワ林を観察中の当センターのボランティアさんが、エゾゼミ(?だと思いますが)の脱皮シーンを目撃、撮影。なかなか見られないシーンに感動しました。

昨年は、カシワの実りがとても悪い年でしたが、今年は、まあまあの実りのようです。

カケス、ネズミたちにも、うれしい秋になりそうです。



セミの脱皮シーン

石狩浜の秋の花・実

海岸草原・海岸林で・・・



コガネギク

秋の海岸草原を黄色く彩ります。



ヒロハクサフジ

紫色の花。葉も花もハマエンドウより小さいです。間違えないでくださいね。



ツルウメモドキ

10月以降、海岸草原に点々と赤い実が散りばめられます。ツルのようには見えにくいですが、ツルウメモドキです。



カシワ

9月、落ちる寸前の大きなカシワの実が見られるのは、海岸の背丈の低いカシワならではです。

はまなすの丘で・・・



アキグミ

たわわになった赤い実は、秋の深まりを告げます。



ハマナス

今年は色づきが遅れていますが、浜の動物たちが実りを待ちわびています。



ウンラン

砂に埋もれながら咲く小さな黄色い花。7月から10月まで見られます。



コウボウムギ

イガイガの実がひときわ興味をひく、砂浜の愛嬌者。

お知らせ

「海浜植物のタネ袋」

海浜植物により親しんでもらうため、石狩浜来訪の記念として、また自宅の庭などでも育てられるよう、種子を来館者に差し上げます。タネがとれる9月中旬以降から、海浜植物保護センターにて。

2006.8.30.

企画講座「断崖海岸の自然を学ぶ」より

石狩市の海岸線は南北に約 80km。南は石狩浜に代表される砂浜、北は暑寒別山地へとつづく断崖海岸と、変化に富んだ海岸線を見ることができます。同じ海辺でも、双方の海岸では、育つ植物が大きく異なります。その違いを現地観察で学ぼうと、去る 7 月 15 日(土) 企画講座「断崖海岸の自然を学ぶ」を開催し、浜益区の海岸で、断崖海岸に育つ植物を観察しました。

砂浜で育つ植物の特徴のひとつは、砂の中に伸びる長い地下茎(または根)をもつことです。これは、常に飛砂で動いている砂地で生活するための適応です。一方、断崖海岸の植物は、岩の割れ目のわずかばかりの土に根を伸ばします。岩場と砂地では、対照的な地下茎・根をもつのです。

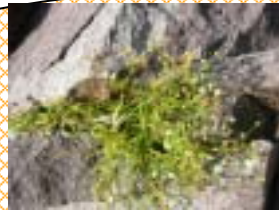
岩場の一部には、比較的土が多く積もっている場所もあり、そこには、ノコギリソウなど海岸草原の植物が見られました。岩場の下には、細かいレキが積もっている場所もあり、ハマヒルガオなど砂浜の植物も見られました。断崖海岸と言っても、微環境に応じて、砂地を好む植物や、安定した土壌を好む海岸草原性の植物なども生育していることがわかりました。

さらに、岩場では、厚い葉や光沢のある葉をもつ植物が多く見られました。これの特徴は、砂浜海岸の植物も同様です。これは、たえず吹き付ける強い風や海水の飛沫、乾燥した環境への適応した海岸の植物全般に見られる特徴のようです。

石狩市の砂・レキ・岩場の各海岸で見られる植物



バシクルモン
(キョウチクトウ科)
海岸の岩場



ハマツメクサ
(ナデシコ科)
海岸の岩場・岩レキ地



コモチレンゲ
(ベンケイソウ科)
海岸や内陸の明るく
乾いた岩の上



イワヨモギ
(キク科)
山地や海岸の
岩場・岩レキ地



ハマハコベ
(ナデシコ科)
海岸の砂レキ地



エゾヒナノウスツボ
(ゴマノハグサ科)
海岸の砂レキ地



ハマベンケイソウ
(ムササビ科) 海岸の砂地

は、「北海道の花」(北大図書刊行会)に記載されている生育環境

レキ浜



ハマヒルガオ
(ヒルガオ科)
海岸の砂地



ウンラン
(ゴマノハグサ科)
海岸の砂地



ハマボウクウ
(セリ科)
海岸の砂地

カラー版はホームページでごらんになれます。

本講座では観察できませんでした。

砂浜

最近の活動

自然観察会

6月10日(土)参加者10名

天候が悪く、参加者も少なめ。ハマナスの見ごろには一足早かったです、ハマエンドウが見ごろ。ノビタキ、ノゴマ、コヨシキリなどおなじみの草原性の野鳥に加え、猛禽のチュウヒも観察できました。

子ども自然教室

7月8日(土)参加者11名

初めて発見する海辺の植物や動物にみな興味津々。暑い日差しの中、クイズやフィールドビンゴを楽しみながら、石狩川河口を一周しました。最後に、集めた花びらや貝がら、押し葉などでしおりを作ったり、コウボウムギの地下茎を拾ってフデをつくったりと、充実した一日を過ごしました。



定期観察

毎月第1、第3水曜日にボランティアさんが実施する、植物の開花状況や野鳥の観察状況を記録する調査。調査時に撮影した写真は、コメントをつけてセンターで展示しています。

海浜性キノコ調査

北方菌類フォーラムの竹橋さんが中心になって、海浜性キノコの調査を実施しています。少なめと予想されていた6、7月も、複数種のキノコを発見。砂浜に傘が出ているキノコを掘ると、埋もれる木片に菌糸を伸ばしていたり、海浜植物の根に菌糸を伸ばしていたり。一見不毛の砂浜ですが、キノコの栄養源はあちこちにあることがわかってきました。

日本自然保護協会海岸植物調査研修会 / 北海道自然観察協議会全道研修会

6月24日(土)25日(日)

日本自然保護協会(NACS-J)が取り組む、市民参加の全国海岸植物群落調査(詳しくは<http://www.nacsj.or.jp/>)の北海道での研修会が、今回、当センターを会場に開催されました。

北海道自然観察協議会の全道研修会もあわせて開催。道内各地で自然観察指導員として活動する方々が集まり、石狩浜の自然とその保護活動について学びました。また、海岸植物群落調査の手法も習得して、現在、各地の海岸で調査に取り組んでいるとのこと。



石狩浜自然ガイド育成研修会

石狩浜の自然解説、自然調査、利用指導などに取り組む、自然ガイドの育成をめざした講習会を、6月~8月に計5回開催しました。

10名の受講生が、当センターがつつちがってきたガイドのコツやノウハウを学びました。



講習会のようす



こんなキノコも

種類や生態については調査中



こんなキノコも

2006.8.30.

活動予定

企画講座「望来シップ海岸の自然を学ぶ」

9月9日(土) 9:00~15:00

集合: 9時石狩市役所

対象: 小学校5年生以上 定員: 25名(先着順)

参加費: 100円 申込み締切: 9/7

持ち物: 筆記用具・帽子・昼食・飲み物・天候に応じて防寒着・雨具・お持ちの方は双眼鏡
小雨・悪天時は時間短縮して実施します。

15時半頃まで

持ち物: 双眼鏡・筆記用具・昼食・野外活動の服装
参加希望の方は、お問合せください。

石狩灯台周辺外来植物除去作業

はまなすの丘の景観を保つため、灯台周辺で増えている外来植物の除去作業です。

予定日時: 10月中旬、10時~12時

持ち物: 長靴、軍手、スコップ、鎌

参加希望者は問合せください。後日、確定した日にちをお知らせします。

子ども自然教室

9月23日(土) 10:00~15:30(予定)

海辺の草原で秋の実りを集めて、クラフトやハマナスのジャム作りを楽しみます。

集合: 自転車の方: 10:00 石狩浜海浜植物保護センター、バス利用の方: 9:30 石狩市役所

対象: 小学生(3年生以下は保護者同伴)

定員: 30名(先着順) 参加費: 100円

申込み締切: 9/15

持ち物: 昼食・飲み物・筆記用具・タオル・天候に応じて防寒着・雨具

悪天時は、時間短縮して実施します。

お知らせ
海浜植物保護センターと弁天歴史公園を結ぶ遊歩道をつくりました。

これまでは車道を歩かなければなりませんでした。海岸草原と防風林の中を歩けるようにしました。



巡回パネル展

「石狩浜の名もなき沼の生きものたち」

石狩浜の一角にある沼には、調査の結果、多様な水生動植物が生息していることがわかりました。この沼の自然誌を紹介します。

会場: 札幌市博物館活動センター

(中央区北1西9リカゲジプザ 5F)

期間: 9/9(土)~10/7(土) 日月曜休館

入館料: 無料

通称、親船名無沼の観察場

ヒツジグサなど水生植物の群生する沼を観察できるように、観察場を整備しました。



定期観察してます!

植物の開花の状況、観察される野鳥を記録し、石狩浜の自然の基礎情報を集めます。

日にち: 10月まで毎月第1、3水曜

時間: 10時頃 海浜植物保護センター集合

行事・講座への参加申込・お問合せ、通信・刊行物に関するご意見、お問合せ等は、下記まで。

開館期間(4/29~11/3): 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1 tel.0133(60)6107 fax.0133(60)6146

開館時間 9時~17時 休館日: 火曜日(祝日の場合その翌日)

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm>

どちらも、ご自由にお立ち寄りください。